

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103821
法人名	有限会社 十匠
事業所名	グループホーム 谷山中央
訪問調査日	平成 21 年 11 月 12 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 29 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4670103821
法人名	有限会社 十匠
事業所名	グループホーム 谷山中央
所在地	鹿児島市谷山中央2丁目609-1 (電話) 099-268-1765

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成21年11月12日 評価確定日 平成21年12月29日

【情報提供票より】(平成21年10月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 6 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 14.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての, 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円 (水道光熱費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 84.3 歳	最低	61 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	谷山緑地病院 ・ 田之畑クリニック ・ 浜田しのぶ歯科
---------	-----------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの玄関に入ると「おかえりなさい」の文字が目に入ってくる。リビングのお気に入りの場所に座る利用者が「よう来たね」と笑顔で迎えてくれる。「今日はお出かけするんです」とうれしそうに話してくれる利用者もあり、おしゃべりと笑い顔でその場が明るい。管理者を中心に心のこもったケアの実践がなされていることが窺える。ホームは主要幹線道路から少し入った住宅地にあり、近くにはスーパーや病院などがある。毎日の散歩や買い物で顔馴染みの関係を築き、町内会の一員として参加した地区の運動会では、利用者が競技に参加し景品をもらってくるなど、地域との関わりも大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果は職員に報告されている。運営推進会議を活かした取り組みでは、市担当者、包括支援センター、消防署、警察署などに運営推進会議の参加をお願いする文書を配り、包括職員の参加が得られたが、1回だけに留まっており今後は継続して参加してもらえるように工夫されることを期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の取り組みは、2ヶ月近くかけてユニット毎に日勤帯で話し合い最後に管理者がまとめている。職員はケアの振り返りの機会と捉え、利用者の楽しみごとや役割などももっとできることがあるのではないかと話し合い、サービスの向上に繋げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は利用者、家族、地域代表、市職員が参加して、年6回開催されているが、年3回の家族会は運営推進会議と兼ねて開催しているため家族の参加が多いが、他の開催日には参加者が職員だけということもある。会議の内容も業務の報告が多く、今後は事業所の取り組み内容や問題点などを話あったり、地域の方々の理解と支援を得られる場となるように、もう一度参加呼びかけの工夫をされ、積極的に働きかけを行なうことを期待します。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年3回の家族会と無記名アンケート、意見箱や面会時などで、家族の意見や苦情、要望を表す機会を作っている。今までに感謝の言葉を頂く事はあったが、苦情などはなく、職員も面会時にはどんな小さなことでも言ってもらえるような雰囲気づくりをしている。出された意見や要望は、ミーティングで話し合い運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、地区の運動会では利用者が地域の一員として玉入れ競技に参加している。日頃からホームの敷地を解放し、子供達の通学路や近道として自転車や散歩の人が通るので、気軽に挨拶や声かけを行なっている。近所の方から野菜を頂いたり、事業所で行う敬老会には、近隣の方にも参加してもらおうなど交流している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	優しさで真心であなたらしさを大切に、地域と関わりながら笑顔のたえない暮らしをめざすことを、地域密着型サービスの理念として、職員と話し合っって作り上げている他、毎年度職員の目標を掲げ理念と共に意識しながらケアにあたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	生活場面で理念を確認できるように玄関、台所に掲げ、毎朝のミーティングで理念を唱和し共有している。職員は散歩やスーパーに買い物に行く時など、利用者が地域の方と交流できるように気を配っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、校区運動会では地域の一員として利用者が競技に参加したり、中学生が車椅子介助のボランティアをしてくれたりと交流している。また、事業所で行う敬老会には、地域の方にも参加してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善課題である運営推進会議では、行政担当者の参加がなかったので、文書で参加をお願いするなど改善に向けて取り組んでいる。自己評価はユニットごとに、日勤帯で少しずつ話し合い管理者がまとめている。職員はケアの振り返りと捉え、利用者の出来る事を増やして行きたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年6回開催されているが、参加者が家族だけの時や職員だけの時もあり、行政からの参加も1回だけとなっている。討議内容も、事業所の報告に留まっており、活発に意見交換が行なわれることを期待したい。	○	運営推進会議は、利用者、家族等、地域代表、地域包括支援センターや行政など、幅広い立場の人が参加する会議とし、参加者の方々が運営推進会議の意義や役割等を十分理解し、積極的に参加してもらえるように働きかけを行なっていかれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加の働きかけを文書で行い、初めて包括支援センター職員が参加された。市町村には、介護保険の切り替え時などに、出向いて相談したり情報を交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行している「風のたより」には、行事での様子の写真、翌月の行事予定、職員の異動等のほか、担当職員が日頃の様子を一言添えて送付している。金銭出納帳のコピーも同封している。面会時には、その都度健康状態や近況報告、金銭出納帳も確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を表せる機会を、家族会や意見箱、無記名アンケート、面会時などである。特に苦情等はなく、元気になった姿に感謝の言葉を聞くことが多い。面会時等で出された要望は、ミーティング等で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職はほとんどなく馴染みの職員によるケアがされている。管理者は、離職を少なくするために、職員の希望を聞き入れた勤務調整と、急な事態でも交替できるように職員との連携を密にしている。また、職員には自分達が楽しむ事と、手を出しすぎないようにして見守りを上手くするように指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所での研修年間計画をたてミーティングの後に研修会を行なっている。外部研修は職員が交代で参加するようしており、研修内容は資料を使って職員へ伝達講習している。資格取得を目指す職員への研修会参加も支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区GH連絡協議会に参加し、ネットワーク作りや勉強会などで情報交換を行っている。法人のグループホームと職員の交流を行なっていきたいという希望もあり検討中である。	○	地区グループホーム連絡協議会での交流なども行なわれているが、さらに職員が他の事業所と相互訪問などの交流を行なうことで、自分のホームの良さ、他の事業所の良さを確認し更なるサービスの質の向上に役立てられる事を希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の申し出があった場合は、自宅や病院などに出向いて状況を把握した後に、家族、利用者と一緒に見学に来てもらい、お茶や昼食などを共にしながら雰囲気に馴染んでもらうようにしている。入所後は、家族の面会を多くしてもらうなど協力を得ながら、徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から調理の仕方を教えてもらい一緒に作ったり、ぞうきん縫いやボタン付けをしてもらった時など感謝の言葉を伝えている。不穏な方に声かけし落ち着いてもらうなど、利用者同士の繋がりも出来ている。職員と一緒に過ごす中で、昔ばなしや会話を楽しみ、利用者が掛けてくれる労わりの言葉や笑顔に癒され、支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活の寄り添う中で、利用者が口にされた思いを支援経過記録に残し、ミーティングで話し合い職員でアイデアを出し合いながら思いを実現させている。利用者が大切にしていた木を、ホームの庭に植え替えいつでも見れるようにするなど、利用者の思いを大切にケアを実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議には、家族も参加し意見を表しているが、参加できない家族には、面会時や電話等で意向を確認している。介護計画は、本人、家族、職員、必要であれば栄養士の指導、医師の看護情報提供書を確認しながらそれぞれの意見を反映した計画書になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化がない場合は、概ね1年で見直しを行っている。状況変化があった場合や退院時などは、家族と必要な関係者、看護師、理学療法士などの意見を取り入れ新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携はとっていないが管理者が看護師であるため、胃ろうの方も受け入れている。家族の要望があれば病院受診にも付き添い、利用者の希望により自宅の山に竹の子取りや墓参りなどの特別支援も行っている。又、外泊時は宿泊支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望するかかりつけ医となっており、かかりつけ医による往診にも来てもらうことがある。職員や家族が受診に付き添った場合に、受診状況一覧表に記載し薬の変更があった場合などに情報の共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに主治医と家族の協力のもとで看取りまで行なった経験があるので、家族の要望があり、主治医の往診、家族の全面的な協力が得られるならば、事業所として対応できる方向にある。今後は、家族の意見を聞き個別の検討会を行なっていく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は言葉の持つ重要性を理解し、今年度のケア目標を「心にやさしい言葉かけ」としている。他人行儀にならないように方言を上手に使い、プライバシーを損ねない対応に気を配っている。個人の記録物も一定の保管場所を決めて個人情報保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせ、起床時間もゆっくりにしたり、食事やお茶の時間をずらしたり、散歩を兼ねて買い物や病院受診に歩いて行くなどの支援の他、牛乳やヨーグルトを宅配してもらったり、好きなおやつや果物を自分で買って来て食べる人、又リーダーシップを取りたい入居者にはその場面を与えたりして、一人ひとりの希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞いて立てることが多く、利用者はキャベツの千切りや魚のおろし、野菜の下処理、盛り付け、後片付け、お茶碗洗いなど一緒に行ないながら、同じテーブルを囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。又牛乳、ヨーグルト、果物等、個別の要望にも対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月、水、金と決めているが希望や必要に応じて支援している。皮膚疾患がある人には毎日足浴を行い、排泄の失敗時にはシャワー浴をするなど利用者に合わせて対応している。拒否する方には、声かけのタイミングをずらしたり、声かけの職員を代えたり、時には管理者と一緒に入り入浴を楽しめるようにしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る力を引き出すように心がけ、職員が手を出し過ぎない様になっている。朝の居室の掃除やモップがけ、茶碗洗いや洗濯物たたみ、テレビのチャンネル当番など役割をもってもらい、レクレーションや近所の足湯、外食、季節毎の行事などで楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買い物には利用者も一緒に行き、お店の方々と顔馴染みになっている。ホームの敷地は近隣の片々の生活道路となっているので、庭先のベンチに座って、近隣の方とお話したり、小さな畑に植えたニラや小ネギの世話をするなどいつでも戸外に出られるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵をかけていない。1階、2階とも裏口にはセンサーが作動しているが、外出傾向の利用者を把握しているので、出たいそぶりを見逃さないように見守りを行なっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導の下に、昼夜想定避難訓練を行っている。自主訓練も行いスムーズな対応ができるよう取り組んでいる。非常食の準備もできている。	○	自主訓練を行い防災に対する意識を高めているので、今後はさまざまな災害について対応できるように訓練されることと、地域の協力体制を確立できるように、運営推進会議等で図り討議されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日食事は1500kcal、水分は1500ccを目安に、チェックし把握している。水分の必要性を認識し、お茶の時間の他夕食の後の水分補給も大切にしている。身体状況に応じて食事形態にも配慮し、食事量が少ない時には代替食でも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前プランターには季節の花が植えられ、リビングには食卓、テレビを囲むようにソファが配置されている。窓から優しい光が入り、心地良い風が良く通るよう換気には配慮している。壁にはおはら節の歌詞、手作りカレンダーが掛けられている。台所からはおいしそう匂いが漂い生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には果物の名前が書かれ、自分の部屋と認識できるようにしている。居室は、ベットと洗面台が備え付けとなっているが、使い慣れたタンスやソファ、テレビ、ポールハンガーなどを持ち込み、大切にしている仏壇、神棚、写真、ぬいぐるみなどで自分らしい、落ち着ける部屋となっている。		